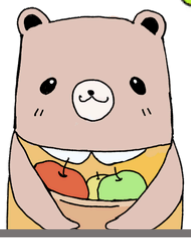
盛岡市家庭教育情報通信





はぐ便り

2026年
9月号
【第132号】

本のある時間を、親子の時間に

「本を読むことは大切」と分かっていても、「最近、子どもが本を読まなくなったな…」「忙しくて読み聞かせをする時間がない」と感じている方も多いのではないでしょうか。

岩手県教育委員会が行った「令和７年度子どもの読書状況調査」結果によると、１か月の平均読書冊数は小・中学生・高校生のすべてで減少しており、１か月で１冊も本を読まなかった児童生徒の割合も増加しています。その一方で、いずれの学校においても、ほとんどの子どもが「読書が楽しい」と回答しているデータもあります。

テレビ、スマートフォンやタブレット端末、動画配信サービス等の様々な情報メディアの発達・普及など、読書を取り巻く環境が変化する中で、子どもたちが本を読む時間をどのようにつくっていくかは、家庭や地域でも大切な課題となっています。

「何冊読んだか」だけではありません



読書について考えるとき、「何冊読んだか」という読書量に目が向きがちです。しかし、それ以上に大切なのは、本に触れることによる子ども自身の「心が動く体験」ではないでしょうか。本には、新しい世界や考え方との出会いがあります。だからこそ、子どもが「読まされる」のではなく、本を身近に感じ、子ども自身から「読んでみたい」と思える環境をつくることが大切です。

家庭でできるちょっとした工夫



①子ども自身に本を選ばせる

子ども自身が興味を持ち、自分で選んだ本を手に取ることで、「本って楽しい」という気持ちを持つことができます。

②大人も本を楽しむ姿を見せる

子どもに「本を読みなさい」というだけでなく、大人が本を楽しんでいる姿を見せることで、子どもは大きな刺激を得ます。

③読み聞かせを続ける（家読（うちどく）の取組）

少し時間があるときは、小さな子どもだけではなく、自分で本を読めるようになった子にも、読み聞かせはおすすめです。お互いに読み聞かせをし合う、読んだ本について感想を話し合うなど、一緒に同じ物語を楽しむことで、本への興味はもちろん、親子のふれあいの時間にもなります。





「１冊」を大切に



忙しい毎日の中で、長い時間を読書に充てることは難しいかもしれません。毎日でなくても構いません、まずは「一緒に『１冊』読んでみよう」から始めてみませんか？

子どもにとって、家族と一緒に本を読んだ時間は、その本の内容だけではなく、家族と一緒に過ごした大切な時間にもなります。子どもが選んだ１冊を一緒に開く、本の内容について話す、お気に入りの本を何度も楽しむ。そんな小さな積み重ねが、本を身近で楽しいものにすることにつながっていくといいですね。



盛岡市家庭教育情報通信『はぐ便り』2026年9月号
【第132号】　令和８年9月17日発行
発行者・問合せ：盛岡市教育委員会　生涯学習課
住所:盛岡市津志田14-37-2　TEL:019-639-9046
E-mail:edu.sgs@city.morioka.iwate.jp